

新たな FIT 訪日旅行者層を取り込め！

～タイ旅行フェア「Visit Japan FIT Travel Fair 2014 Winter」に参加しました～

シンガポール事務所

自治体国際化協会シンガポール事務所（以下 CLAIR）は、観光庁・日本政府観光局（以下 JNTO）が主催する「Visit Japan FIT Travel Fair 2014 Winter（以下 FIT フェア）」に参加し、JNTO バンコク事務所と連携して観光 PR を実施しました。

1. タイの訪日 FIT 市場

JNTO の発表によると、2014 年のタイからの訪日外客数は 10 月の時点で 513,300 人（推計値）と、年間訪日外客数が過去最高となった 2013 年の 453,642 人を既に超えるほどの伸びを見せています。このように好調を維持するタイの訪日旅行市場ですが、その要因として 2013 年 7 月 1 日からの訪日タイ人旅行者に対するビザ免除や円安傾向などから、団体旅行とともに FIT（個人旅行）観光客が増加していることが挙げられます。また 2014 年 6 月以降相次いで格安航空会社（LCC）の日本路線が就航したことにより、今後も FIT の拡大が期待されます。

観光庁・JNTO バンコク事務所は、2011 年からこのような FIT 旅行者向けに日本の観光情報を PR するためのフェアを開催しています。6 回目となる今回の FIT フェアはバンコク中心部の富裕層向けショッピングモール「サイアム・パラゴン」で開催され、会場は 3 日間の会期中を通して非常に多くの来場者であふれかえり、大きな盛り上がりを見せました。



多くの来場者で盛り上がる FIT フェア会場の様子

2. FIT フェアにおける日本の観光 PR

冬をテーマに開催された今回の FIT フェアには、日本側から自治体関連団体や旅行業関連団体など 15 団体が、タイ側からは航空会社や旅行会社など 12 団体が出展し、タイで増加し続けている個人旅行者層に向けて訪日旅行の PR を行いました。会場入口には JNTO ブースが日本の観光案内の総合窓口として設けられ、自治体・関連団体では、ひがし北海道観光事業開発協議会、小樽・北後志広域インバウンド推進協議会、札幌市、函館市、長野県、新潟県湯沢町、千葉県、昇龍道プロジェクト推進協議会（中部・北陸）、熊本市の 9 団体が出展しました。

◆JNTO ブースでの情報提供

多くのタイ人訪日旅行者が困ることとして、情報収集の難しさが挙げられます。タイの旅行フェアでよく受ける相談の一つとして、「地域の観光情報や、宿泊施設・交通機関のウェブサイトが日本語のみで、情報収集や予約をどうやって行えばよいか教えてほしい」といったものがあります。情報不足のタイの方々は、こうした旅行フェアで多くの情報を得るために来場し、幅広く細かな内容の相談をすることが多いため、FIT フェアでは、このような来場者に対応するために「旅程相談コーナー」を開設しました。このコーナーは非常に好評で、開催期間を通して行列が絶えませんでした。また、今回はブースの一角に、タイ語の観光サイトをまとめた情報コーナーが設置されました。スマートフォンなどで見たい地域の QR コードを読み込めば、タイ語のウェブサイトへつながるようになっており、こちらも 3 日間利用する人が途絶えることがありませんでした。



旅程相談コーナーで相談をする来場者



観光サイトコーナーで QR コードを読み込む来場者

◆来場者の特徴に変化

これまでの FIT フェアでは来場者の大半が訪日旅行のリピーターで、日本人でも知らないような詳しい説明を求められる傾向がありましたが、今回 JNTO ブースへ足を運んだ来場者からは、定番の旅行先である東京や大阪・京都などの情報を求められることが圧倒的に多く、相談の内容も初歩的であったように思われます。その理由として、LCC の就航や円安などの影響により日本を訪れやすい環境が整えられ、これまで日本に行けなかった人たちも行けるようになってきたことが考えられます。今回のフェアに参加し、タイにおける訪日旅行者層の拡大が感じられました。

また、東京・大阪と同じく LCC が就航している九州や、タイ国際航空チャーター便の就航が決定している広島などについても問い合わせが多くありました。2014 年の年末から 2015 年 3 月末まで、日系・現地の各旅行会社が日本の各地にチャーター便を就航することも予定されており、このような機会を捉えてプロモーションを行うことで、様々な地域への誘客が図れるのではないかと考えられます。

◆自治体・関連団体ブースでは

既述のとおり、今回の FIT フェアには自治体・関連団体 9 団体が出展していましたが、いくつかの団体にお話を伺ったのでご紹介します。

◆札幌市

今回初めて出展したが、予想以上の盛り上がりで資料も不足するほどの状況。団体旅行では札幌の名はある程度知られているが、FIT ではまだまだこれからであることを実感した。その分伸び代があるので今後 FIT 旅行者も取り込んでいきたい。去年は空港と市街地を結ぶ高速鉄道エアポートレールリンクにラッピング広告を行ったが、現在タイ高架電車 BTS への広告を行っている。また、今回のフェアの翌週にはセントラルワールドでの北海道フェアが開催され、その際には札幌市主催で特設ミニゲレンデを設置してのスキーイベントも予定されている。引き続き今後もこのようなタイへのプロモーションを行ってきたい。

◆新潟県湯沢町

前年に引き続き今回も参加した。盛り上がりもすごくチラシの減りも早かった。新潟県湯沢町のブースには、まだ行ったことのない場所を探している方で知らない地名を見てやってくる方が多く、また東京近郊で良い場所を探している方も多かった。TITF (タイ国際旅行フェア) にも参加しているが、自分たちの場合、こちらのフェアの方が感触が良い。2014 年 11 月～2015 年 2 月の期間、JR 東日本がタイ高架電車 BTS で GALA 湯沢の車体ラッピングや車内広告を行っており、今回のフェアではこの効果も絶大だった。

◆熊本市

初めて参加した。今回、熊本が 2015 年公開予定のタイの映画のロケ地になったことがきっかけで出展することとした。熊本のことを知っている方も多く、好感触を得られた。阿蘇のことをよく聞かれたが、それ以外には地元の人しか知らないような祭りや花に関する質問をよく受けた。逆に、九州にあまりショッピングのイメージがないようで、ショッピングや食に関してはあまり聞かれなかった。



来場者に対応する各団体ブースの様子

3. 様々な事業との連携～Japan を総合的に PR～

今回も、前回同様 CLAIR 事業「日本ふるさと名産食品展」が同じショッピングモール内の別会場で開催されていました。FIT フェアの期間中は、会場ステージで同食品展参加企業 5 社が商品の PR イベントを行い、日本への旅行を検討しているタイ人が多く集まる場で特産品の PR をすることで、観光と物産を組み合わせた総合的な地域の魅力をアピールすることができました。

各企業からは特産品や産地の紹介が行われた後、風呂敷を使った和風包装のデモンストレーションや体験、じゃんけん大会が行われ、ステージは盛り上がりを見せました。各社の紹介が終わった後には商品の試食品が提供され、試食をするために多くの来場者がステージに詰めかけていました。



ステージで地域産品を PR する食品展出展者



列を作って試食に並ぶ来場者の様子

また、今回はこの他にも、日本の放送コンテンツの PR のために「J Series Festival」(主催：国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会)が、音楽コンテンツの売り込みのために「J POP Signature in Bangkok 2014」(主催：JETRO、PROMIC)が同時期に同地域で開催され、FIT フェアと合わせて「JAPAN WEEKEND」として、官民が連携し日本を一体的に PR することで、タイの人たちが日本の様々な魅力に触れる機会が作られていました。

4. おわりに

今回の FIT フェアは非常に大きな盛り上がりを見せ、旅行商品の売り上げも好調で、タイでの FIT の訪日旅行市場の勢いや訪日旅行者層が拡大していることを感じることができました。しかし同時に、タイの人たちが訪日旅行の際に困っていることも解消されておらず、特に言語面で情報収集が困難である状況が引き続きあることも窺えました。今後もタイ訪日旅行市場が好調を維持していくためには、このような様々な課題に対応していくことが必要であると思われます。

当事務所では、今後も引き続きタイの訪日旅行市場に関する有益な最新情報を収集するとともに、必要に応じて関係機関と連携し、より効果的なかたちでタイにおける日本の地方の魅力を発信できるよう努めてまいります。

5. FIT Travel Fair 2014 Winter について

概要	タイの一般消費者のうち FIT(個人旅行者)に日本の多種多様な観光資源とその魅力を官民一体となってアピールするフェア。 2011年に初開催され、2013年より年2回開催。今回で6回目となる。
会期	2014年11月14日(金)～11月16日(日) 10:30～20:30
開催場所	タイ・バンコク サイアム・パラゴン 2階 Lifestyle Hall
主催	国土交通省観光庁、日本政府観光局(JNTO)
対象	一般消費者
入場料	無料
来場者数	約 38,000 人 (3日間合計推計値、前年 11 月開催時：約 35,000 人)
出展団体数	日本側出展団体 15 団体、タイ側出展団体 12 団体
訪日旅行商品購入者数	3,252 人 (3日間合計、前年 11 月開催時：1,098 人) ※フェア会場にて 5,000 パーツ (約 15,000 円) 以上の訪日旅行商品を購入した人の延べ人数

※FIT フェア出展に関するお問合せ先：日本政府観光局 (JNTO) 海外マーケティング部アジアグループ 電話：03-3216-1902

(関根所長補佐 新潟市派遣)

